



奉祝記念事業は恙無く進捗し、御社殿・境内の景観は更に整い、神社の尊厳が弥増すと共に、より身近に神の息吹が感じられる親しみの増した御社殿が誕生しました。ご一緒にお進みいただいております氏子崇敬者各位の格別なる御篤志に心から感謝いたし厚く御礼申し上げます。全事業の完遂は3月末日の予定です。



拝殿から幣殿、神殿を仰ぐ。装いを改め、広々と開放感の増した殿内



虹梁の上に取り付けられた畳股には龍の彫刻

御鎮座
1270年

奉祝記念事業完遂間近



木鼻には獅子の彫刻



手挟の彫刻

*向拝周囲の豊かで鮮やかな彩色の彫刻類もぜひご覧下さい



遷座奉祝奉幣祭（御幣帛を献進）



遷座奉祝奉幣祭（12月4日）



遷座祭遷御（12月3日）



遷座祭（祝詞奏上）

当神社では十二月三日に本殿遷座祭、翌四日には畏くも天皇陛下に御下賜頂いた御幣帛を御神前に献奉り遷座奉祝奉幣祭が厳肅に斎行されました。
これは、来る令和九年に迎える箱根神社御鎮座一二七〇年奉祝記念事業として進行中の御本殿浜縁高欄の造替・御屋根の葺替を始め拝殿内部の改修や向拝の改築工事等が、今般目出度く竣工を迎え、臨時大祭として厳かに執り行われました。

天皇陛下の御幣帛を献奉り
本殿遷座祭 遷座奉祝奉幣祭を斎行

令和七年十二月三日午後七時、本殿遷座祭が斎行されました。
本殿遷座祭とは、大神様の遷座にあたり、仮に設けられた御仮殿から元の御本殿にお鎮まりになる時に行われる極めて重要なお祭です。
当日の夜、浄闇のなか絹垣に囲まれた「御」が御仮殿を出御。夜の静寂に警蹕の音が響くなか御本殿への遷御が厳肅に執り行われました。
明けて十二月四日九時より遷座奉祝奉幣祭が執り行われ、畏くも天皇陛下の御幣帛が御神前に供進され、宮司が祝詞を奏上。続いて神楽「浦安の舞」奉奏の後、宮司に続いて総代、氏子崇敬者、工事関係者等の各代表が感謝と祈願の真心を込めて拝礼し、恙なく斎行されました。
此度の本殿遷座祭と遷座奉祝奉幣祭は、昭和十一年当神社が国幣小社であった時代に、御本殿を始めとする御社殿造営竣工の際に斎行されており、それより数えて実に約九十年ぶりの大きな慶事となりました。
（権宮司 柘植英満）